



京都 YWCA

5 2022



古都に咲いて100年



2.11 集会「沖縄×2.11」 「自分ごと」として沖縄を考える



京都 YWCA では、平和について考える「2.11 集会」を毎年開催しています。今年は、沖縄で新基地建設抗議の海上行動を続けておられる金井創（かないはじめ）さん（日本キリスト教団佐敷教会牧師）を講師に迎え、2月20日にオンラインと京都 YWCA を会場にして開催しました。大阪・名古屋・沖縄の各 YWCA から平和活動報告もありました。主催した平和・環境委員会のメンバーの感想を紹介します。

2月11日は、日本書紀に基づいて紀元前660年に初代天皇である神武天皇が即位したとされる日を記念して明治時代に定められた紀元節を、戦後1966年に再度建国の日として記念した祝日です。一方で、過去の戦争への反省に立つさまざまな立場から、思想・信条の自由を守る日ともなっています。戦争につながった国家としてのまとまりを天皇制として強制する性質は、明治より始まり敗戦を経た後も現在へとつながっていることが実感できました。金井牧師のお話では、沖縄は明治に日本の一部とされ、本土復帰を経た今も日本本土から見て防波堤であり捨て石とされ、国防の要石として基地や辺野古の問題が現在進行形として存在しています。今、戦争や紛争が止まない世界にあって、私たちはどうするのか、日々の生活からそれぞれの人権がどう守られているかを考えさせられる集会でした。（青野美佐江）

若い頃に YWCA でよく「根っこは一つ」という言葉を耳にしましたが、沖縄の人々を苦しめているさまざまな問題を知れば知るほど、決して他人事ではないと思わされます。日本という国がいかにか一人ひとりの人間を大切にしているかを、今回の集会でも痛感しました。自分は被害者であると考えがちですが、そういう国のあり方を許してしまっている加害者でもあるという意識を忘れてはいけないということが、

何よりも大事です。常に自分にできること、すべきことは何だろうと問い続けていきたいと思います。

質疑応答で、辺野古基地は完成したとしても嵩上げ工事が毎年必要な基地となり、米軍も最終的に受け入れないだろうと言われ、今すぐ基地移設計画を止めて欲しいと思いました。（新海恵子）

天皇制と沖縄の関わりは、普段は話題にもならないことですが、金井牧師は「天皇制の延長上に辺野古がある」と語られました。日本で唯一の地上戦となった沖縄は「捨て石」とされました。これは天皇制護持のためと日本の沖縄差別であったことは歴史的には明らかです。私がとくに知りたかったのは、沖縄の人たちは天皇や天皇制に対してどう思っているのかということでした。答えは「あまり関心はない。でも今年もし沖縄復帰50周年に天皇が来ることになれば、反対運動がおきるであろう」ということでした。

初めて知ったことの中に、『蛍の光』の歌の4番の歌詞が沖縄への差別を含んでいることや、沖縄の人たちが日本に同化するために、積極的に行動したこと（例えば苗字を日本風に変える）など、考えさせられることがたくさんあり、学びのときとなりました。（木戸さやか）



辺野古の抗議船「不屈」と安和棧橋の抗議船「木乃葉蝶」



海上抗議行動の様子



2022 年度ミッション推進活動運営委員会 会長あいさつ

連帯の力で一人ひとりの思いを社会へ届ける

京都 YWCA は 2023 年に迎える創立 100 周年に向けて、さまざまな取り組みを行っています。本紙でも歴史を振り返るイベント報告や特集記事を取り上げてきました。

この 100 年の間に、さまざまな技術革新により人々の生活は大きく変わりました。たくさんの情報や便利な物が溢れています。しかし社会に目を移した時、現代と重なる課題があることに驚かされます。大震災や感染症パンデミックといった自然・文明災害、構造的暴力はなくなることはありません。むしろ時代を経るごとに規模は大きく、被害は深くなっているとも言えるかもしれません。

大正デモクラシーの時代にあって、海外から来た YWCA の幹事たちとの出会いは、自ら生きたいという想いを内に秘めた女性たちにとって、開かれた窓から吹き込む清々しい風と明るい陽射しだったのではないのでしょうか。周年誌を読むと、京都 YWCA の設立準備のために、設立後も常に財政に悩み、頭も手もフル回転させ工夫し YWCA 運動を推進してきた女性たちの姿が見えてきます。そこには苦労による重苦しい黒い影は見当たりません。

京都 YWCA は、今の社会の大きな変化のうねりの中で岐路にたたわれています。だからこそ、会員ひとり一人が信念と希望とユーモアを忘れず、創立期の熱量を思い出し、これからの 100 年に思いをはせ、社会に働きかける YWCA 運動を続けていきたいものです。

京都 YWCA に関わる仲間に、心寄せてくださる方々に、そして同じ時代を生きているこれから YWCA と出会うかもしれないすべての人たちに感謝しつつ、100 周年に向かう最後の 2022 年度を喜びと共に皆さまと歩みたいと思います。（別所加恵）



第 100 回定期会員集会を終えて ～創立 100 周年とその先に向けて～

京都 YWCA 創立 100 周年を 1 年後に控えた 3 月 5 日、100 回目の京都 YWCA 定期会員集会を開催しました。年度末に開かれる会員集会は、会員が 1 年の活動を振り返り今後の活動について協議するとともに、会員同士が交流する貴重な機会となってきました。本年は定期会員集会の 1 週間余り前にロシアによるウクライナへの軍事侵攻がおり、集会は犠牲者への黙祷から始まりました。

京都 YWCA の 99 年の歴史は、女性の視点から暴力のない平和な社会の実現をめざし続けた年月と言えます。20 世紀において世界は幾多の戦争を重ねて未曾有の惨禍を経験し、21 世紀を二度と戦争のない世界にすることを誓ったはずですが、日本の YWCA においても戦争への歯止めとなれなかった反省を踏まえ、非暴力と「核のない」世界をめざして戦後の活動が続けられてきました。

今回の集会の主題は「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイによる福音書 5 章 9 節）です。紛争のない世界へ導くものは「他者への想像力」です。京都 YWCA では、一人ひとりを大切に、多様な人々のふれあいを通して互いを認め合う安心の場「セーフスペース」を創る事業を推進してきました。

沖縄には「ぬちどう宝（命こそ宝）」という言葉があります。明治政府が琉球王国を併合（琉球処分）した 1879 年

に琉球最後の国王尚泰が残したと言われるこの言葉は、非暴力による抵抗の象徴となっています。集会ではロシアとウクライナに友人をもつ若い参加者から戦争の即時停止を求める発言があり、共感を呼びました。

「命を選ぶ」こと、非核・非暴力の姿勢を貫くことの大切さを次の世代につないでいくことが YWCA のミッションであることを、再確認したといえる集会でした。

（上村 諭巳子）



オンライン併用で実施
懐かしい会員も遠方から参加しました

「Y ここ Kitchen」 ここにあれば誰かに会える ～子ども・若者のセーフスペースをオープンします!～

「やっほー、来たよ」。とある日の夕方、京都 YWCA の自立援助ホーム「カルーナ」の退所者やその友人ら、若者が三々五々に集まってきた。キッチンでは手作りの食事をスタッフが準備中だ。エプロンを着けて料理を手伝ってくれる人、おしゃべりに花を咲かせる人、一人で手仕事に取り組む人など過ごし方はそれぞれ。小さな子どもを連れて来てくれた家族もいて、子どもを中心に自然と笑顔の輪ができていた。

また別の日は、ユース委員会の企画が開かれ、SNS を通じて少女をターゲットにし性的に搾取する大人たちの実態をテーマにした海外のドキュメンタリー映画をみんなで観て、「日本でもこういうことはあるよね」と SNS に関するトークで盛り上がった。

これは、子どもと若者の居場所、「Y ここ Kitchen」のトライアル（試運転）の一場面である。京都 YWCA は、女性や子どものエンパワメントをめざし、これまでに自立援助ホーム「カルーナ」の運営や多文化ルーツの親子支援等を行ってきた。これらの事業を通じて、社会から孤立し

がちな子どもや若者の「居場所」の必要性を痛感し、新規にオープンすることとなった。

「Y ここ Kitchen」の対象は小学生から 35 歳以下までで、参加費は無料。あたたかいご飯を食べたり、ボードゲームで遊んだり、勉強をしたり、生活や仕事の相談をすることができる。また、ストレッチ等でリラックスしたり、心理の専門家によるカウンセリングを受けたり、一人暮らしに役立つワークショップ等のプログラムも企画予定だ。

4 月は週 2 回のペースだが、6 月からは月・水・木・土曜日の週 4 回、各日 15 時～20 時にオープンする。対象年齢の子ども・若者は誰でも参加できるので、ぜひ遊びに来てください！（御前麻里）



Y ここ Kitchen の様子



シリーズ——京都 YWCA 100 年の歩み (8)

YWCA に集う人々をつなぎ続けたバザーとスリフトショップ

京都 YWCA とバザーの関係を歴史的に見れば、1921 年 11 月 19 日に設立準備のために開かれ純益 580 円を上げたのが始まりである。活動資金の一部を直接的に生み出してきたバザーは、3 年前に幕を閉じたが、違う形で今もリサイクル市は続けている。

この間、新型コロナウイルス感染症の影響で、集うことに制限を受け続けていることも手伝ってか、バザーを懐かしみ、出会いの場、協働の機会としての意義を語る声を耳にしている。

YWCA の総力を結集した名物バザー

私が個人的に目にした 70～90 年代のバザーは、何もかも大掛かりで、準備から終了まで大勢の人々の関わりとエネルギーは相当なものだった。開催直前になると会館には夜遅くまで灯りがともっていた。料理教室の各講師の特色あるメニューの食堂。手作りのエプロンなどの製作品。京都 YWCA 以外からの出店には、有名ブティックがあり高級品も並んだ。会員が大阪まで行って仕入れたアクセサリや売店も記憶している。お客を増やすために入場券や食券を知り合いに配って売上げに協力した。ユース世代の青年部が独自にプチバザーを開催したり、贈答品を販売したりする友愛セールなども思い出にある。

スリフトショップ始まる (1975)

1975 年にスリフトショップの活動が始まった。スリフト (Thrift = 倹約) と 3R (reduce, recycle, reuse) の考え方が浸透するにつれ、月 2 回の定期的開催と年 2 回のバザーが連動し、バザーはビッグスリフトとしての大きな比重を占めていた。取扱いの大半が女性の衣類と思われる向きもあるだろうが、80 年代には大型家具を取り扱い、着物や常設の食器の保管兼売り場もあった。

長年の継続の裏には、日々の地道な整理整頓の作業や会場設営のための力仕事は欠かせなかった。セールの後、お疲れさまの茶話会のひとときではその日の成果を喜び合った。時代のニーズを先取りしたスリフトショップの精神は、形は変わりながらも活かされ続けている。（弘中奈都子）



ある日のバザー

おススメです！



コミック「戦争は女の顔をしていない」第1巻

作：小梅けいと 監修：速水蝶旋人
原作：スヴェトラナ・アレクシエヴィチ
発行：株式会社 KADOKAWA

2015年にノーベル文学賞を受賞したペルーの作家スヴェトラナ・アレクシエヴィチの著書を基にしたコミックシリーズ第1巻である(2巻、3巻も発行)。原作は第二次世界大戦の独ソ戦に参加した500名以上の女性を取材した証言集(初版1984年)。多くのソ連の女性(ロシアの女性もウクライナの女性も)がナチス・ドイツからの祖国防衛のため

に志願した。彼女たちは健気に闘ったが、さまざまなことが女性たちを苦しめる。例えば支給される下着は一揃いだけ、彼女たちが通った後は赤い染みが土に残る。ズボンは乾ききってガラスのようになる。

この戦争でソ連は2700万人という犠牲者を出した。本書は、勇敢な女性たちと賛美するだけですまされないことを鋭く問うている。

「京都 YWCA 100 周年記念募金」
へのご協力をお願い

京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しており、この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施しています。ご寄付は以下の目的に充てられます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリス設計「サマリア館」の補修のために
- 歴史を未来に引き継いでいくために

目標額：1,000 万円
募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月
募金額：個人 1 口 3,000 円
団体・企業 1 口 10,000 円



郵便振替 01080-9-1566
加入者名 公益財団法人京都 YWCA

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせてください。ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

自立援助ホーム「カルーナ」退所者へのご支援

退所者への支援継続のためのご寄付は以下よりオンラインでしていただけます。

<https://congrant.com/project/kyotoywca/4274>

ご協力ありがとうございました

2022年2月1日から3月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

日本キリスト教団京都丸太町教会

各指定寄付

* 100 周年記念募金

横川宏美、岡佑里子、河野伴子、
寺田有古、神岡茂子、太田興、
別所加恵、野崎泰子、有田孝子

* 世界総会派遣募金

浅野献一、有田孝子

* 平和・環境活動委員会

今井貴美江、平野富希、
「福島を知る」参加者一同、
2.11 集会参加者有志、達富かよ子

* 居場所委員会

河野伴子、太田昭子、柳井一郎

* 多文化共生委員会

河野伴子、森川和恵、森雄二郎、
御前明美、寺田有古、神門佐千子、
浅野献一、太田昭子、有田孝子、
森田園子、上村愈巳子、内田匡子、
飯田修、富田京子、友岡文、池上信子、
金茶延、コングラント(株)、
同志社女子大学宗教部

* APT

坂和優、上内英子、田中順子、
平安教会、上内鏡子、飯田奈美子、

北村保子、安藤いづみ、森田園子、
神門佐千子、大手理絵、池上信子、
同志社高校山崎敏明、
同志社女子大学宗教部、
日本キリスト教団洛陽教会

* ユース委員会

日本キリスト教団室町教会

* 自立援助ホーム「カルーナ」

若尾典子、千葉綾子、村松通子、
鶴崎祥子、寺田有古、竹内二三、
山上義人、鶴崎祥子、横川宏美、
河野伴子、山本いつみ、山本知恵、
重谷秀星、神門佐千子、野崎泰子、
柳井一郎、匿名、
同志社女子大学宗教部、
日本キリスト教団京都南部地区、
日本キリスト教団京都丸太町教会

* 保育園

井上依子、横川宏美、浅野献一

* 賛助費

北村保子、大城美代子、
日本キリスト教団京都御幸町教会、
野崎泰子、中村信博、長谷邦彦、
佐伯昌和、浅野久代、杵山悦子、
伊東真代、出店都、田中愛子、
高島照子、匿名、(株)田中工務店

3・4月／理事会報告

- こども・若者の居場所事業を2・3月にトライアルで実施。6月より毎週4回の開催を予定(本号P3参照)。
- 保育園は卒園式として育ちを祝う会(3/26)、入園式として出会いを喜ぶ会(4/2)を実施。
- 100周年記念募金の一環としてW.M.ヴォーリス設計のサマリア館補修のクラウドファンディングを準備中。ヴォーリスとヴォーリス建築についての講演会も予定している。
- 高校生活を始める多文化ルーツ子どもたち3人と自転車を持っていない多文化ルーツ子どもたちを応援するクラウドファンディング

を実施した(4/10まで)。

- サービス付き高齢者向け住宅サラームの居住者を対象に、成年後見制度の勉強会実施(4/16)
- 京都 YWCA のユース(35歳以下)メンバーと、気候変動問題に取り組む団体 Fridays For Future Kyoto のメンバーが協働してオンライン・ワークショップ「気候変動とジェンダー」を実施(3/21、3/30)
- YMCA と連携してウクライナ緊急支援募金を開始するとともに、街頭募金活動を実施。

KYOTO YWCA No.568 2022年5月号(5月1日発行)

発行人：上村愈巳子
発行所：公益財団法人京都 YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351
FAX：(075)431-0352
e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566
口座名義：(公財)京都 YWCA
定価：1部50円
発行：奇数月1日発行